

## 1. 災害時の職員の心構え

### 職員一人一人の使命感・責任感が災害対応を支える

’ 95.1 兵庫県南部地震 【事務所】【出張所】

**【事例】** 発災後5日間は寝る間もなく、2週間は泊まり込みで、とにかく大変だった。所長、副所長も同じような状況だった。そのような状況を乗り越えられたのは、道路を通さなければならないという使命感、責任感だったと思う。

(国道事務所 道路管理第二課長)

**【教訓・アドバイス】** 各人の職分意識が大切である。職員自身も被災者となりうるし、その場合の被災の程度にもよるが、特に管理職などは何をおいても事務所に出てくるという心構え・責任感が必要だと思う。(国道事務所 道路管理第二課長)

**【教訓・アドバイス】** 上に立つものが全てを判断できるとも限らない。判断する内容の重大さにもよるが、現場の職員がその場で迅速に判断しなければならないこともある。上司に「何かあったら責任は私が取る」という意識が無ければ、現場に出た者が思い切った判断をすることが難しくなる。(国道事務所 道路管理第二課長)

’ 78.6 宮城県沖地震 【事務所】

**【反省・課題】** 発災後には、安否確認なども含め、普段の倍以上の交通が国道に集中した。国道を管理する行政マンとしては道路を止める訳にはいかないと判断し、危険が残っている可能性のある橋梁を通したこともあった。このような判断はトップが責任を持ってするしかないと感じた。(河川国道事務所長)

**【教訓・アドバイス】** 災害対応時にはトップダウンで判断を下す指揮命令系統で無ければ機能しない。一方で、各現場全てにトップが居る訳ではなく、現場に居る者が素早く判断しなければならない場合も多い。上に立つ者は、部下の力量を見極め、部下を信頼し、責任は自分がとるから判断を下してくるように言って部下を送り出さなければならない。(河川国道事務所長)

災害対応時の活動は、職員一人一人の責任感に支えられる。対応の遅れが危機の拡大に繋がりうるので、トップには極めて限られた情報のもとで、即断が求められ、即刻行動に移さねばならない。現場では、部下に判断を委ねることもありうる。